

# 令和4年度子育てサポーター養成講座

第1回 6月8日(水) 「家庭教育支援の理解」

講師：親業インストラクター 波多野 ゆか 氏



## 【受講者の声】※抜粋

- ・波多野先生の話はこれまでも幼児施設での家庭教育でも聞かせてもらっていて、本当に参考になっている。相手の気持ちになって話を聞くということ、姿勢を大切にすること、本当に大切だと思う。今日も国の状況、宮城の状況も教えてもらった。私なりに頑張ってみたいと思う。
- ・頭の中では理解しているつもりでもなかなか実際にはできていないことが多い。改めて「言葉がけ」「聴く」ことに注意しながら行っていきたいと思う。
- ・いつもパワフルな波多野先生に元気ももらえた。家庭教育の必要性やその背景についても分かりやすい説明でした。自分の家での親としての関わり方、子育てサポーターとして他の親のみなさんとの関わり方など、今後の講座を通して、知識を深め、技能を高めたいと思う。子育てサポーターとして研修も大切だが、こういう場で、人のつながりが増えていくことが、とてもいいなと思う。
- ・自分の関わり方を見直すきっかけになった。「むすんでひらいて」おもしろい。手抜きでやってみたいと思う。
- ・マスク生活まだ続きそうなので、ジェスチャーを大きくやっっていこうと思う。
- ・参加して良かった。虐待について、この話を高校3年生くらいの子供たちに聞いてほしい伝えてほしいと思った。親からの虐待について、子供は何も言えず周囲も……。その後はこの世から消えてしまうことを選んでしまう方向になってしまうこともある。それだけはしないでほしいと思う。どこかにつながってほしいと思う。つながる、つなげることに関わればと思っている。できれば役場職員の方々全員にこの話を聞いてほしい。参加してこれからの町を見て皆で子どもを育てて行ければいいなとも思った。
- ・とても勉強になった。子供が大きくなり、現在の実情現状(数字より)は少し前とかなり変化していること、必要なことが少しずつ変わってきていることなどが分かったことは大きな価値があった。正しく知ること、活動に参加することを地道に取り組んでいきたいと思う。

第2回 6月15日(水) 「親子の理解とかわり方」

講師：尚絅学院大学 准教授 相馬 亮 氏



## 【受講者の声】※抜粋

- ・絵を通しての支援の大切さが大変参考になった。私自身絵を描くことが苦手で、なかなか思うように表現できなかった小中学生時代を過ごした。先生の話聞いて、ほっとした気持ちになった。描いた絵、作品のできばえではなく、子どもの心をしっかりととらえることの大切さを今後の活動に生かしていきたい。

- ・ 絵画を通しての子供の発達に対し大人の余計な言葉がけ。思い当たることが多々あり、反省する。「待つ」「きっかけを作る」どの分野にも大切なことと痛感している。楽しかったです。ちなみに、私は絵画、制作が苦手で過ごしたが、どこで躓いたのか分かった。少しずつ絵画や作品を見て心を潤わせようと思う。
- ・ 子供の絵の発達の理論を知っているか知らないかで関わり方が違ってくる。その通りだと思う。子供を理解する上で、とても貴重な話を伺うことができた。
- ・ 子供の感性の成長はまちまちであることは理解しているが、むやみにそれを直そうとするのではなく、子供が自発的に成長するに任せることが重要であり、聞かれたら教えらるる“正しい知識”が必要なのだと思った。
- ・ とてもおもしろい講座だった。昔学校で習ったことが少しよみがえった。新しい情報も満載でこの知識を現場のスタッフで共有したいと思う。なかなかこのような講座を聞く機会がないので貴重な経験だった。子供たちの描きたいを否定せず、上手く引き出してあげられるような保育者でありたいし、後輩の保育者にも伝えていきたいと思う。
- ・ “子供の今が大切”そのとおり。子供のもっている宇宙のように広い可能性を伸ばしてあげたいとも思った。
- ・ 昨年に続き、相馬先生の話が楽しくて、今年も参加した。相馬先生の話で、私が心を動かされたことを知人に話したが、知人には「難しいこと。芸術家だね」とか言われ、話が通じ合わず。相馬先生や理解されている方が、多くの保護者の中で話してくれたら、我が子の今の成長を見逃さず、親として喜べる出来事に会い、親と子供の信頼関係が強くなるのになあと思う。小学校5・6年生で絵の挫折をしやすいとのことだが、大人の側で提案できる方法等を知りたい。

### 第3回 6月22日(水) 「総合的な理解～地域活動、父親の教育参画～」

講師：お父さんのネットワーク 世話人 石垣 政裕 氏



#### 【受講者の声】※抜粋

- ・ 一人の父が子どもに関わることから地域、世界へと目を向け活動を広げられたことはもとより、子どもの接し方のアイデア、工夫に感動した。核家族が多く、子育てはなかなか難しい現在でも自分達から地域に溶け込もうとする気持ちが大切で、地域の人達も積極的に関わりを持てるよう自分も3回の研修を振り返り、よりよいサポートができればと思った。
- ・ チームでの子育ての大切さ重要性を感じた。チームの一員になれたらと思う。
- ・ 子育てに限らず物事に対して、“だれか”がではなく“関わるみんな”が問題にあたること、その関わりを生むコミュニティ作りの大切さを教えてもらった。自分に不足していることを認識できたのが良かった。
- ・ 家族を一つのチームと考えると、父、母、兄弟姉妹、祖父母などそれぞれがそれぞれの立場で関わっていることがよく分かった。学校、地域にそのチームを広げてみても、その子一人一人に対し、多くの人達が関わっていることが分かる。父親の立場、視点から何ができるのか考えていきたい。土日に子どもと遊ぶことも大切だと思うが、日々の家事を分担して母親の負担を減らすことも大切だと思う。少子化によって両親や祖父母がより子育て、孫育てに積極的な現代だからこそ、どう関わっていくか、どうネットワークを広げていくかを考えていかなければならないと感じた。
- ・ うちの主人が以前、学校で防災について学ぶには泊まる経験をすると分かりやすいんでないかと話していたことが頭をよぎった。私は難しそうと思っていったが、なんと仙台市の小学校ですすでに取り組みまれてたとは、と驚いた。楽しく活動する中でないと子どもは意欲的にならず関心も向かないと思うので、このような活動すごく良いと思う。お子さんが赤ちゃんのころから絵本を毎日繰り返し読み聞かせてあげてたのすてき。自分の子も、お預かりするお子さんも、関わる人達ワンチームで心一つに大切に接していきたい。
- ・ 小さな事からコツコツと、そして世界へとつながる。とてもすばらしいと思った。チーム力=若いも若きも行政も(入らなければならない状況にしていくという感じ)も巻き込んで町内ワンチームで何かできたらすごく良いなと思った。